

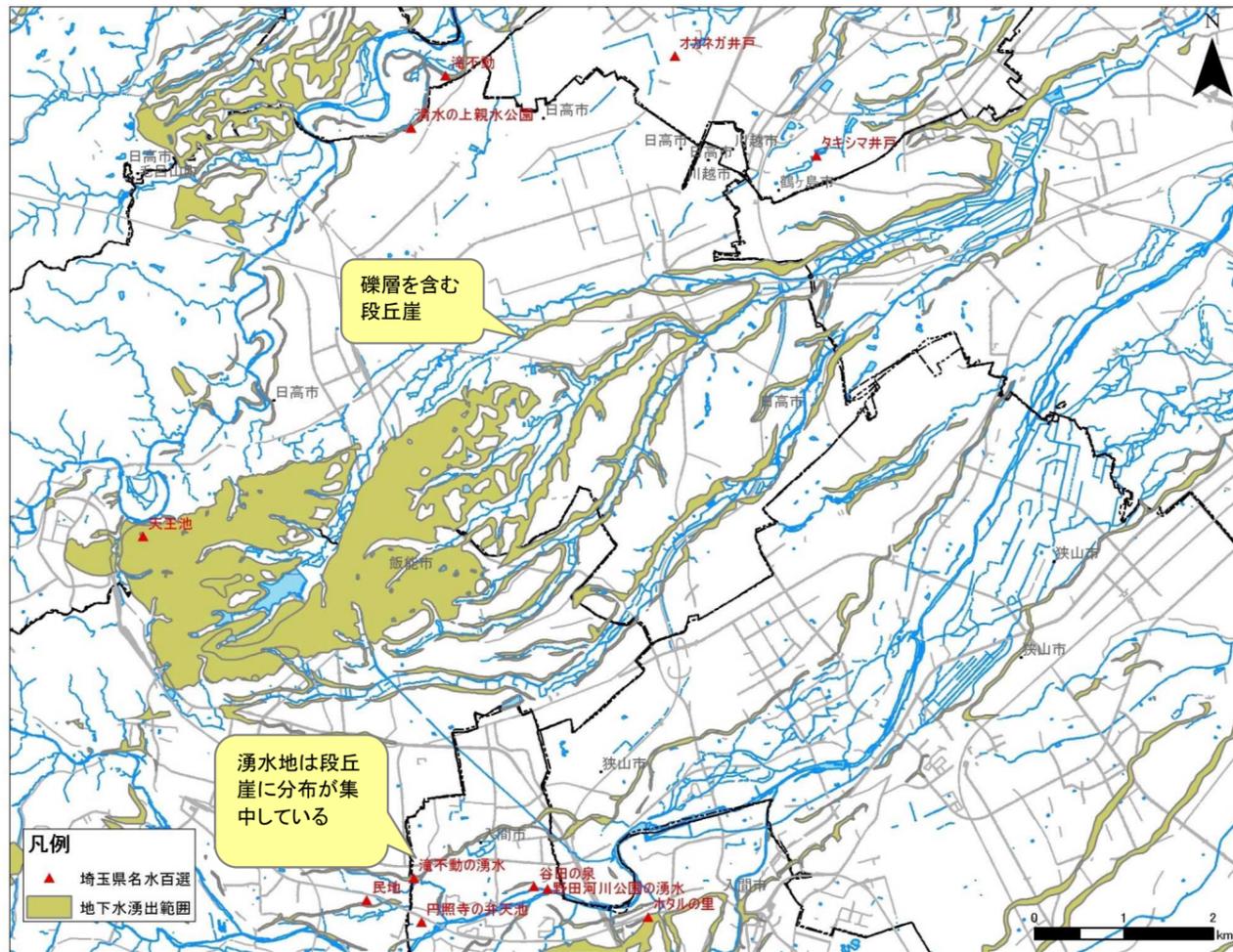
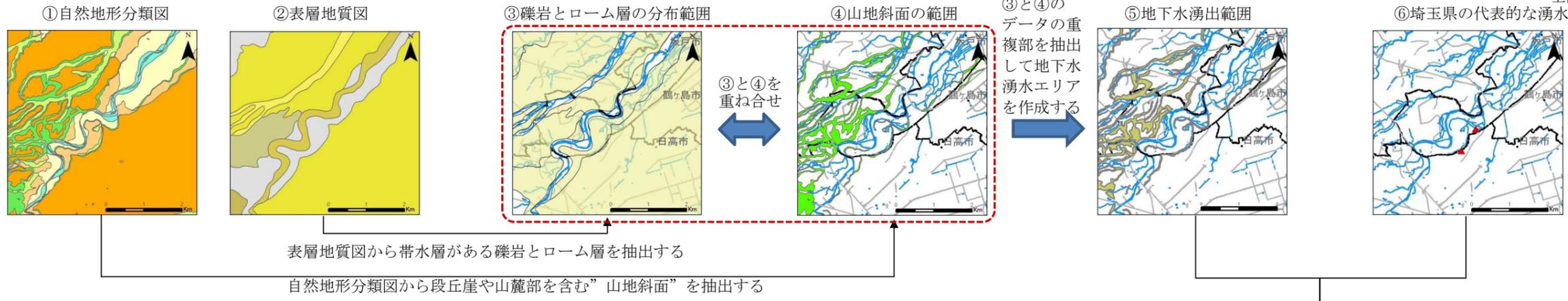
# 土地分類調査成果の活用事例 4

事例名	湧水地の調査資料1	分野	環境分野
-----	-----------	----	------

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平成29情使、第1276号)

使用するデータ	●国土交通省：5万分の1土地分類基本調査GISデータ(表層地質図) ●国土交通省：土地履歴調査データ(自然地形分類図) ●環境省：埼玉県の代表的な湧水 ●基盤地図情報	<a href="http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download/index.html">http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download/index.html</a> <a href="http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/land_history_2011/pdf_index.php">http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/land_history_2011/pdf_index.php</a> <a href="http://www.env.go.jp/water/yusui/result/sub4-2/PRE11-4-2.html">http://www.env.go.jp/water/yusui/result/sub4-2/PRE11-4-2.html</a> <a href="https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php">https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php</a>
使用図幅: 5万分の1「川越」		

上記URLは平成30年2月現在



地域の名水マップの事例

利用目的	山麓部や段丘崖の基部には地中の帯水層から地下水の湧き出る湧水地が多く存在する。これらの湧水は古くから農業用水や生活用水として利用されており、その中には名水として重用されているものも多い。湧水地は一部の著名なものを除き、地域住民にしか知られておらず、隠れた地域資源となっている。このような湧水地を、単に広く普及するだけでなく、その成因(どのような場所に、どのような理由で湧水があるのかなど)を踏まえて、地域資源の普及と保全を目的としたマップとして整備する。
利用効果	公開されている情報を使うことで、湧水地の発生しやすい箇所(礫層を含む段丘崖、山麓部を中心とする地下水湧出範囲)を抽出することができ、これにより湧水エリアと湧水地をマップとして取りまとめることができる。マップは単なる湧水地の場所を表すだけでなく、湧水のメカニズムをわかりやすく普及啓蒙するための資料としても活用が可能である。また、湧水エリアを抽出することで、未把握の湧水地を調査するための基礎資料として利用することも可能である。他方、学校教育の場面では、地域学習のテーマとして生徒の住む町の隠れた名水を調査するなど、地域資源としての湧水地の重要性を学習するなどの利用も期待できる。
作成手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土地履歴調査成果の自然地形分類図(①)より、湧水地ができやすい山麓部や段丘崖を含む山地斜面を抽出する。(④)</li> <li>●5万分の1土地分類基本調査成果の表層地質図(②)より、帯水層のできやすい、礫層及び下層に礫層が存在するローム層を抽出する。(③)</li> <li>●③と④のデータを重ねて、重複する範囲(礫岩とローム層を持つ山地斜面)を抽出して、地下水の湧水するエリアを想定する。(⑤)</li> <li>●環境省や地方公共団体が保有する湧水地の情報(今回は環境省のデータを利用)を使い、遊水地の住所に座標を付与した湧水地データを作成する。(⑥)</li> <li>●⑤と⑥のデータを重ねて地域の名水マップを作成。</li> </ul>
利用上の課題	本事例では、既知の遊水地の位置がGISデータとなっておらず、環境省のリストに掲載されていた住所より、座標付与(ジオコーディング)を行いGISデータ化した。一般ユーザがジオコーディングを行うためには、無償で利用できるジオコードを利用するなどの手間が必要になる。湧水地に限らず、地域資源の住所付きリストがGISデータ化されることで、一層利活用が進むものと思われる。

本資料中の説明は、あくまでも土地分類調査の調査データの活用事例を示したものであって、確定的な分析ではありません。ご使用にあたっては専門家のご助言等を頂いて下さい。